

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月14日
【四半期会計期間】	第26期第3四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社ガイアックス
【英訳名】	Gaiax Co.Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表執行役社長 上田 祐司
【本店の所在の場所】	東京都千代田区平河町二丁目5番3号
【電話番号】	03 - 5759 - 0300（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役 野澤 直人
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区平河町二丁目5番3号
【電話番号】	03 - 5759 - 0378（直通）
【事務連絡者氏名】	執行役 野澤 直人
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第25期 第3四半期 連結累計期間	第26期 第3四半期 連結累計期間	第25期
会計期間	自 2022年1月1日 至 2022年9月30日	自 2023年1月1日 至 2023年9月30日	自 2022年1月1日 至 2022年12月31日
売上高 (千円)	1,936,702	1,897,456	2,597,744
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	16,523	12,811	174,485
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	4,847	139,129	341,528
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	253,392	152,078	522,912
純資産額 (千円)	1,503,103	1,439,092	1,331,303
総資産額 (千円)	2,243,959	2,230,835	2,204,249
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失 (円)	0.99	27.27	69.49
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	65.2	63.8	58.8

回次	第25期 第3四半期 連結会計期間	第26期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2022年7月1日 至 2022年9月30日	自 2023年7月1日 至 2023年9月30日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 (円)	23.48	2.77

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第26期第3四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
3. 第25期第3四半期連結累計期間及び第25期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期(当期)純損失であるため、記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

### （ソーシャルメディアサービス事業）

第1四半期連結会計期間において、スナップマート株式会社の全株式を取得し、完全子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。

### （インキュベーション事業）

第2四半期連結会計期間において、当社が運営していたシェアオフィス事業を吸収分割により、MIRAI-INSTITUTE株式会社に承継しております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社DA0エージェンシーを新規設立し、同社を連結の範囲に含めておりません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、新型コロナウイルス感染症による行動制限や海外からの入国制限の緩和により社会活動の正常化が進み、緩やかな景気持ち直しの動きが継続しております。一方、世界的な金融引き締めや物価上昇のほか、世界情勢の先行きによる景気引き下げリスクは依然として存在しており、引き続き注視が必要です。

当社グループを取り巻く事業環境におきましては、岸田内閣が2022年を「スタートアップ創出元年」と表明し、同年11月には「スタートアップ育成5か年計画」を発表するなど、当社の起業支援「スタートアップスタジオ」の取り組みに強い追い風が吹いております。また、シェアリングエコノミー分野においては、2032年度には最大約15兆円にまで日本の市場が拡大すると予測されており、当社出資先の多拠点居住サービスを提供する株式会社アドレスは7月、株式投資型クラウドファンディングの申込金額が国内最高額に達しております。そしてweb3分野においては、世界市場が2030年には2021年の約25倍となる800億ドルに成長すると予測されているほか、6月の改正資金決済法の施行により、ステーブルコインが電子決済手段として明確に定義され、引き続き注目を集めていく見通しです。

このような背景のもと、当社は、引き続き成長が期待されるシェアリングエコノミー分野やオンライン事業分野、そしてweb3（ブロックチェーン、DAO・分散型自律組織）に注力し、様々なサービスの開発や起業・事業支援をするとともに、ソーシャルメディアサービス事業のノウハウを展開し、ビジネス領域の更なる拡充と優位性の確保に努めてまいりました。8月には、北海道庁より受託した「スタートアップ創出促進委託業務」において、道内から起業家を連続的に輩出する「北海道スタートアップスタジオ」を立ち上げており、当社の新規事業創出ノウハウの委託事業への活用が引き続き拡大しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、ソーシャルメディアサービス事業においては、当連結会計年度に買収し子会社化したスナップマーケット株式会社との連携により、SNSマーケティング・プロモーションが大きく伸びました。インキュベーション事業においては、新型コロナウイルス感染症の制限等が緩和され、海外旅行や体験等のアクティビティへの参加者が増加し、体験型マッチングサービスの売上高が増加いたしました。また、保有している営業投資有価証券の一部売却があったものの少額だったこと、吸収分割でシェアオフィス事業の売上が減少したことなどにより前第3四半期連結累計期間に比べて減少する結果となりました。利益面については、人件費の増加、各種オンラインツール費用の増加が損益に影響いたしました。

この結果、売上高は、1,897,456千円(前年同期比2.0%減)、営業利益は、248千円(前年同期51,572千円の損失)、経常利益は、12,811千円(前年同期16,523千円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、139,129千円(前年同期4,847千円の損失)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (ソーシャルメディアサービス事業)

ソーシャルメディア領域

<コミュニティパッケージ、企業向けブログ、活性化サービス>

Facebook、Twitter、LINE@、Instagram、ブログなどソーシャルメディア活用の企画提案やシステム構築・運営、多店舗向けのブログシステムの提供、グループウェア、クラウド型グループウェアを提供  
マーケティング支援領域

<ソーシャルメディアマーケティング、Webマーケティング>

ソーシャルメディアやブログなどを活用したマーケティングのコンサル業務、Webサイトの構築・運営

その他領域

動画面接スカウトサービスのオンライン就活、ウェルビーイング、コーチング

当第3四半期連結累計期間は、円安による金融市場の変動に不透明な状況が続いているものの、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により、行動制限の解除や社会活動の正常化が進む中、Instagram、TwitterやFacebookなどのソーシャルメディアを活用したプロモーションの需要も依然として高まっております。SNSを活用したプロモーションの代行業務及びコンサルティング売上は順調に伸張し、新規取引先も増加いたしました。営業費用においては、売上台数増加に伴い人的リソースが不足し、原価となる外部の業務委託者への発注が増加いたしました。この結果、売上高は1,407,676千円（前年同期比7.9%増）、セグメント利益は269,915千円（前年同期比4.7%減）となりました。

#### （インキュベーション事業）

インキュベーション事業は、グループ外における投資育成支援（グループ外インキュベーション）とグループ内で創設される新規事業（グループ内インキュベーション）で構成されております。

グループ外インキュベーションにおきましては、投資先企業の株式を保有し、事業育成・成長支援などのハンズオン支援を行っております。

グループ内インキュベーションにおきましては、地域体験マッチングサービス「aini」、海外在住の日本人が案内する「LOCOTABI」などを提供しております。

当第3四半期連結累計期間においては、保有している営業投資有価証券の一部を売却したものの、シェアオフィス事業の吸収分割に伴う売上高の減少が影響し、売上高及びセグメント利益については、前第3四半期連結累計期間に比べて減少しております。スタートアップスタジオにおいては、北海道庁より受託した「北海道スタートアップスタジオ」を立ち上げました。福岡市に次いでさらにスタートアップの活性化に貢献しております。

この結果、売上高は493,236千円（前年同期比24.7%減）、セグメント損失は3,560千円（前年同期80,581千円の損失）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて0.0%減少し、2,127,079千円となりました。これは、主に現金及び預金が88,881千円、受取手形及び売掛金が13,560千円減少したこと、営業投資有価証券が42,843千円、流動資産のその他に含まれる棚卸資産が37,245千円増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて36.1%増加し、103,756千円となりました。これは、主にのれんが54,901千円、建物及び構築物（純額）が9,315千円増加したこと、敷金及び保証金が29,662千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて1.2%増加し、2,230,835千円となりました。

#### （負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて7.3%減少し、451,586千円となりました。これは、主に未払法人税等が19,990千円、1年内返済予定長期借入金が23,282千円減少したこと、預り金が38,947千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて11.8%減少し、340,156千円となりました。これは、長期借入金が16,250千円、固定負債のその他に含まれる預り保証金が14,140千円、資産除去債務が14,000千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて9.3%減少し、791,743千円となりました。

#### （純資産）

純資産は、前連結会計年度末に比べて8.1%増加し、1,439,092千円となりました。これは、主に利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益により139,129千円増加したこと、資本剰余金が配当により25,513千円、新株予約権が18,776千円減少したことによるものであります。

### （3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### （4）研究開発活動

該当事項はありません。

## 3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,607,800
計	11,607,800

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,337,452	5,337,452	名古屋証券取引所 ネクスト	(注)1、2、3
計	5,337,452	5,337,452	-	-

- (注)1 完全議決権株式であり、権利の内容に何ら限定のない当社おける標準的な株式であります。  
2 単元株式数は、100株であります。  
3 「提出日現在発行数」欄には2023年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		5,337,452		100,000	2,551	2,551

(注) その他資本剰余金を原資とする配当金の支払いに伴う積立による資本準備金の増加であります。

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 234,600	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,099,500	50,995	同上
単元未満株式	普通株式 3,352	-	-
発行済株式総数	5,337,452	-	-
総株主の議決権	-	50,995	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,600株(議決権26個)含まれております。

【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ガイアックス	東京都千代田区平河町二丁目5番3号	234,600	-	234,600	4.40
計	-	234,600	-	234,600	4.40

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、UHY東京監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	697,954	609,073
受取手形及び売掛金	288,272	274,712
営業投資有価証券	1,090,090	1,132,933
その他	52,672	111,265
貸倒引当金	969	904
流動資産合計	2,128,020	2,127,079
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	0	9,315
土地	-	4,091
工具、器具及び備品(純額)	18,483	14,176
リース資産(純額)	0	-
その他(純額)	254	63
有形固定資産合計	18,738	27,646
無形固定資産		
ソフトウェア	637	397
ソフトウェア仮勘定	-	5,189
のれん	-	54,901
無形固定資産合計	637	60,488
投資その他の資産		
投資有価証券	2,000	2,000
敷金及び保証金	37,857	8,194
長期貸付金	61,761	50,458
その他	6,561	5,433
貸倒引当金	51,327	50,465
投資その他の資産合計	56,853	15,620
固定資産合計	76,229	103,756
資産合計	2,204,249	2,230,835

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	61,348	70,724
1年内返済予定の長期借入金	40,282	17,000
未払費用	114,296	99,316
預り金	27,728	66,675
未払法人税等	70,731	50,741
株主優待引当金	16,106	3,203
リース債務	1,969	-
その他	154,927	143,925
流動負債合計	487,392	451,586
固定負債		
長期借入金	69,650	53,400
繰延税金負債	280,014	286,556
リース債務	7,549	-
その他	28,340	200
固定負債合計	385,554	340,156
負債合計	872,946	791,743
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	149,985	100,000
資本剰余金	1,858,226	1,882,698
利益剰余金	1,290,961	1,151,831
自己株式	68,367	68,367
株主資本合計	648,883	762,499
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	646,981	659,930
その他の包括利益累計額合計	646,981	659,930
新株予約権	35,437	16,661
純資産合計	1,331,303	1,439,092
負債純資産合計	2,204,249	2,230,835

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
売上高	1,936,702	1,897,456
売上原価	633,396	679,015
売上総利益	1,303,305	1,218,440
販売費及び一般管理費	1,354,878	1,218,192
営業利益又は営業損失( )	51,572	248
営業外収益		
受取利息	2,048	1,379
助成金収入	1,294	1,891
為替差益	6,954	6,872
貸倒引当金戻入額	24,603	2
その他	2,454	3,339
営業外収益合計	37,355	13,485
営業外費用		
支払利息	1,501	922
その他	804	0
営業外費用合計	2,306	922
経常利益又は経常損失( )	16,523	12,811
特別利益		
新株予約権戻入益	3,767	20,637
雇用調整助成金	5,902	-
事業分離における移転利益	-	111,571
特別利益合計	9,669	132,208
特別損失		
新型コロナウイルス感染症による損失	6,964	-
特別損失合計	6,964	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	13,818	145,020
法人税、住民税及び事業税	2,962	5,890
法人税等合計	2,962	5,890
四半期純利益又は四半期純損失( )	16,780	139,129
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	11,933	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	4,847	139,129

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	16,780	139,129
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	236,611	12,949
その他の包括利益合計	236,611	12,949
四半期包括利益	253,392	152,078
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	241,459	152,078
非支配株主に係る四半期包括利益	11,933	-

【注記事項】

( 継続企業の前提に関する事項 )

該当事項はありません。

( 連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更 )

第1四半期連結会計期間において、スナップマート株式会社の全株式を取得し、完全子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社DAOエージェンシーを新規設立し、同社を連結の範囲に含めております。

( 会計方針の変更 )

( 時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用 )

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」( 企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。 ) を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27 - 2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

( 追加情報 )

( グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用 )

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」( 実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。 ) に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

( 四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係 )

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費( 無形固定資産に係る償却費を含む ) 及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 ( 自 2022年1月1日 至 2022年9月30日 )	当第3四半期連結累計期間 ( 自 2023年1月1日 至 2023年9月30日 )
減価償却費	15,213千円	7,734千円
のれんの償却額	29,697千円	6,100千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の 種類	配当金 の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年8月10日 取締役会	普通株式	25,513	5.00	2023年6月30日	2023年9月28日	その他 資本剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の  
末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2023年3月30日開催の第25回定時株主総会の決議に基づき、2023年6月1日付けで減資の効力が発生し、資本金の額49,985千円及び資本準備金の額49,985千円を減少し、その他資本剰余金に振り替えております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソーシャル メディアサ ービス事業	インキュ ベーション 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,287,664	649,037	1,936,702	-	1,936,702
外部顧客への売上高	1,287,664	649,037	1,936,702	-	1,936,702
セグメント間の内部売上高又は振替高	17,275	5,783	23,059	23,059	-
計	1,304,940	654,821	1,959,761	23,059	1,936,702
セグメント利益又は損失( )	283,300	80,581	202,718	254,291	51,572

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 254,291千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ソーシャル メディアサ ービス事業	インキュ ベーション 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	1,407,676	489,779	1,897,456	-	1,897,456
外部顧客への売上高	1,407,676	489,779	1,897,456	-	1,897,456
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	3,457	3,457	3,457	-
計	1,407,676	493,236	1,900,913	3,457	1,897,456
セグメント利益又は損失( )	269,915	3,560	266,355	266,106	248

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 266,106千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第1四半期連結会計期間において、スナップマート株式会社の全株式を取得し子会社化したことに伴い、「ソーシャルメディアサービス事業」において、のれんが61,001千円増加しております。

なお、のれんの金額は、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行ってりましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴う金額の変動はありません。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な会計処理の確定

2023年2月14日(みなし取得日 2023年3月31日)に行われたスナップマート株式会社との企業結合について、第1四半期連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第3四半期連結会計期間に確定しております。この暫定的な会計処理の確定に伴う金額の変動はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( )	0円99銭	27円27銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( ) (千円)	4,847	139,129
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	4,847	139,129
普通株式の期中平均株式数(株)	4,913,058	5,102,758
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	第20回新株予約権については、2023年6月24日をもって権利行使期間満了により失効しております。

- (注) 1. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。
2. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化を効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

2023年8月10日開催の取締役会において、2023年6月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

- (イ)配当金の総額 25,513千円  
(ロ)1株当たりの金額 5円00銭  
(ハ)支払請求の効力発生日及び支払開始日 2023年9月28日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

株式会社ガイアックス  
取締役会 御中

UHY東京監査法人  
東京都品川区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 若槻 明

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 谷田 修一

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ガイアックスの2023年1月1日から2023年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2023年1月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ガイアックス及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役及び取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。